

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は2026年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ等の器具を使った練習、レーン内にミニハードル・マーク等を置いて行う練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) 投てき練習は危害予防に特に留意すること。投てき場以外での投てき練習は禁止する。
- (3) 投てき競技においては必ず競技役員の指示に従って練習すること。
- (4) 走路の使用は原則として以下の通りとする。状況により変更があるときは係員の指示に従うこと。

◎メイン競技場	◆1～2レーン：中長距離	◆3～7レーン：短距離	◆8～9レーン：ハードル
※練習可能時間は開門時刻～9：00まで			
◎補助競技場	◆1～2レーン：中長距離	◆9～10レーン(ホームストレートのみ)：100mHと110mH	
	◆3～4レーン：短距離(スタートダッシュはホームストレートスタート地点)	※ホームストレートは5～8レーンも使用可	
	◆第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路にかけての5～6レーン：300mHと400mH		
◎雨天練習場	◆1～2レーン：スタート練習	◆3～4レーン：快調走	◆5レーン：復路 ◆6レーン：待機場所
※走方向については、南(1500m スタート地点)⇒北(200m スタート地点)の一方通行とします。(厳守)			

3 招集について

- (1) 招集所は本競技場メインスタンド下の室内練習場に設ける。(100mスタート地点側)
- (2) 招集時刻について
 - アトラック種目(長距離種も含む)は競技開始20分前に完了する。
 - イフィールド種目は競技開始30分前に完了する。ただし、棒高跳は競技開始90分前とする。
 - ウ混成競技は最初の種目のみ招集時刻どおりに実施する。2種目目以降は、種目ごとの招集は行なわないので、各種目のスタート位置またはピットに10分前までに集合して競技役員の指示を受ける。
- (3) 招集の方法について
 - ア競技者は、招集完了時刻までに招集所内の席、或いは、現地で待機し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブス・スパイク・シューズ(厚底)・商標等の点検を受ける。(トラック競技のみ腰ナンバーを受け取り出発までに右腰部やや後方に付ける。)
 - イカメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末(デジタルメディアプレーヤーを含む)もしくは類似の機器の持ち込みは禁止とする。(TR6.3.2)
 - ウ代理人による点呼は認めない。2種目を同時に兼ねる競技者は「2種目同時出場届」(招集所に準備する)を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。(TR4.3)
 - エ招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。(TR4.5)
 - オ棄権する競技者は招集完了時刻までに所定の「欠場届」(招集所に準備する)を競技者係に提出すること。
 - カアスリートビブスは所定の大きさのままで胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍競技は背部または胸部のみでもよい。(TR5.7)

4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順・試技順)

- (1) トラック競技におけるレーン順及びフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技で次のラウンド進出者を決める際に、同記録があったときは、0.001秒単位で着差判定をして進出者を決める。それでも判定できないときは同成績とし、抽選により進出者を決める。(TR21.3) 但し、空きレーンがあるか、走る場所がある(800m競走でレーンに複数割り当てする場合を含む)のであれば、同成績者は次のラウンドに進むことができる。(TR21.5) 抽選が必要になった場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部で当該競技者あるいは代理人により抽選を行う。

5 競技について

- (1) トラック競技
 - アスターターの合図は英語(イングリッシュ・コマンド)で行う。

イ 四種競技を除いて、不正スタート1回で失格とする。四種競技においては、1 レースで 1 回目の不正スタートは失格にならないが、そのレースで2 回目以降の不正スタートをした競技者はすべて失格となる。(TR16.8/ TR39.8.3)

ウ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。

エ 予選出場者が9 人以下となった場合は、決勝時刻に決勝を行う(予選の招集完了時刻に決定)

オ レーンの競走においてはフィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に従って走ること。

カ 2000m 以上の長距離種目については、気象状況によっては給水を実施する。

(2) フィールド競技

ア 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従って行うこと。

イ 投てき競技の計測は光波測定器を使用する。

ウ 投てき競技の出場者は、滑り止め剤を自身で用意すること。(主催者は用意しない)

エ 投てき競技の試技数について、気象条件によっては予選3 回、決勝1 回など変更があり得る。競技当日に大会本部で協議の上、アナウンスする。

オ 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)に主催者が用意したマーカーを2 個まで置くことができる。(TR25.3.1) サークルで行う投てき競技は、マーカーを1 つだけ使用することができる。(TR25.3.2)

カ 携帯電話等、TR6.3.2 に関わる機器は競技場内に持ち込むことができない。

キ 三段跳の踏切板は、砂場から男子は1 1 m、女子は8 mの位置に設置する。ただし、気象状況等により変更する場合がある。

ク 走高跳バーの上げ方は最後の一人になり、優勝が決まるまでは下表の通りとする。ただし、気象状況等により変更する場合がある。

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以後1 人になるまで
男子走高跳	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	3 c m
女子走高跳	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.63	1.66	3 c m

ク 「棒高跳」「四種競技」の練習及び開始の高さは当日決定する。

6 競技用具について

(1) 投てき用具は競技場に備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。

(2) スパイクシューズのピンは7 mm以下とする。走高跳及びやり投は9 mm以下とする。

(3) 競技で使用するシューズの底の厚さは、以下の範囲とする。(TR5.2)

種 目	シューズ底の厚さ
トラック種目、ハードル種目 障害物競走	2 0 mm以内
フィールド種目	2 0 mm以内(前部が踵より厚くなってはならない) * サークルで行う投てき種目(砲丸投、円盤投、ハンマー投)については適用しない。
ロード・競歩	4 0 mm以内

7 その他

(1) メインスタンド開門時刻は11日(土) 16:00、12日(日) 7 : 3 0とする。

(2) プログラム訂正は11日(土) 17:00までに、12日(日) 8 : 3 0までに受付へ申し出る。

(3) 選手控え場所については、メインスタンド及びその中二階、芝コーナースタンドとし、屋内練習場内の場所取りは認めない。また、メインスタンド及び中二階では、第一日目終了後にシートや荷物は全て撤去すること。

(4) 発病・負傷に対しては応急処置を行うが、以後の責任は一切負わない。

(5) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。

(6) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係の受付に用意した記録証明書交付願に5 0 0 円を添えて申し込むこと。

(7) 当日の記録は当協会ホームページにおいて発表する。